

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告

保健体育課

1 調査の目的

- 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

※本調査は平成20年度より開始。(H23は東日本大震災、R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施)

2 調査の対象及び内容

(1) 調査対象(公立学校)

- ① 小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の5年生全員(15,630名)
- ② 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部の2年生全員(11,541名)

(2) 調査内容

① 実技に関する調査

- ア 小学校8項目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ)
- イ 中学校8項目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ)

※20mシャトルランか持久走どちらかを選択

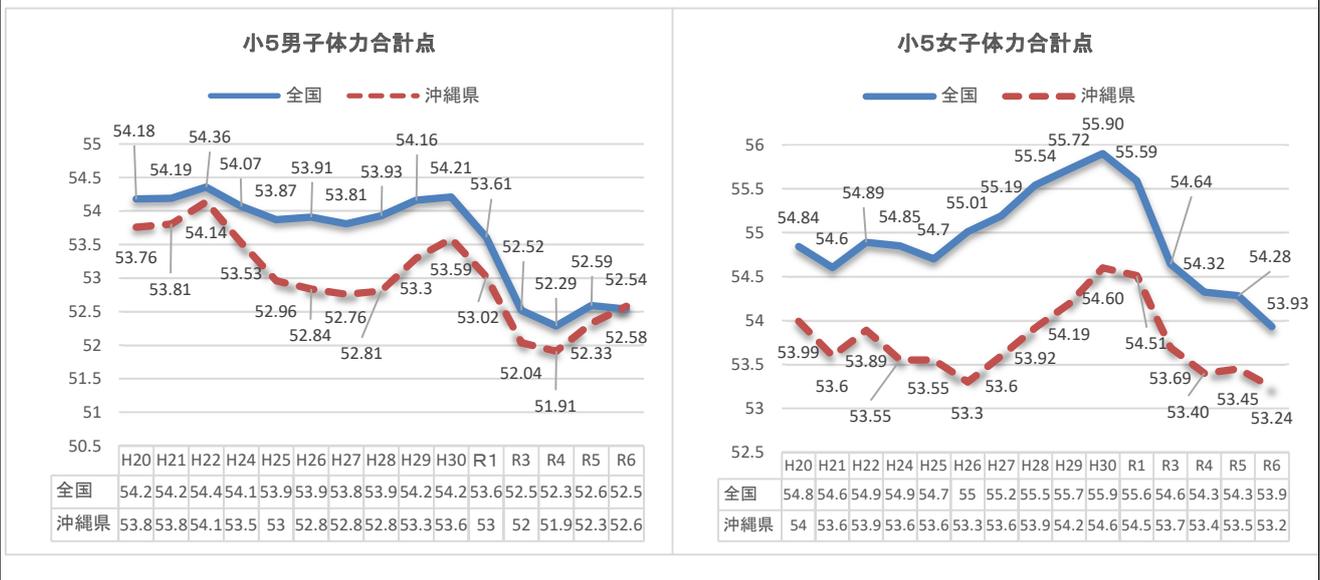
② 質問紙調査(運動習慣、生活習慣等)

3 沖縄県の小学5年生の結果

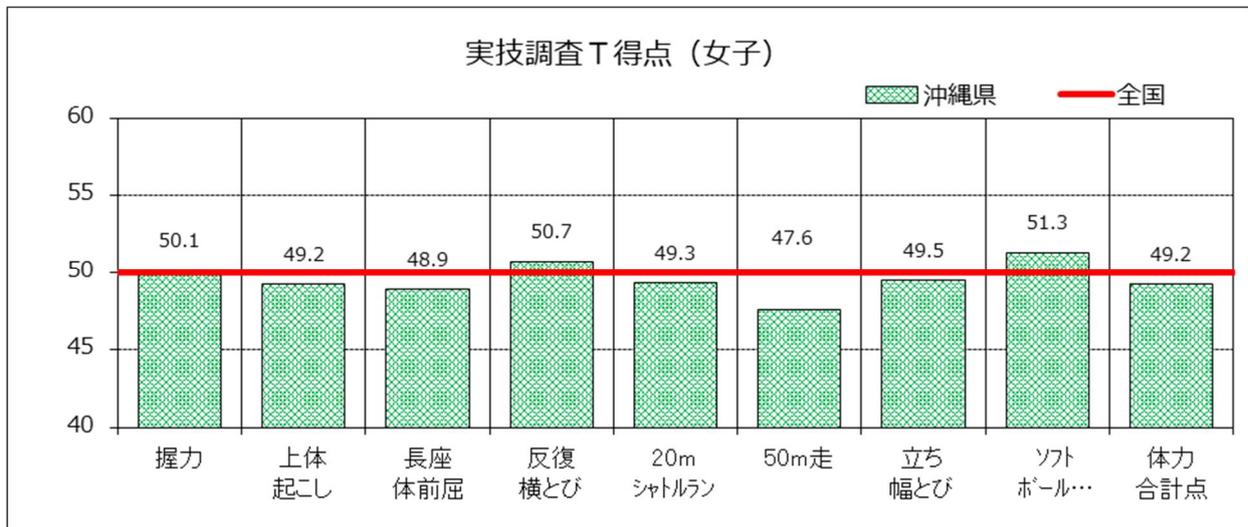
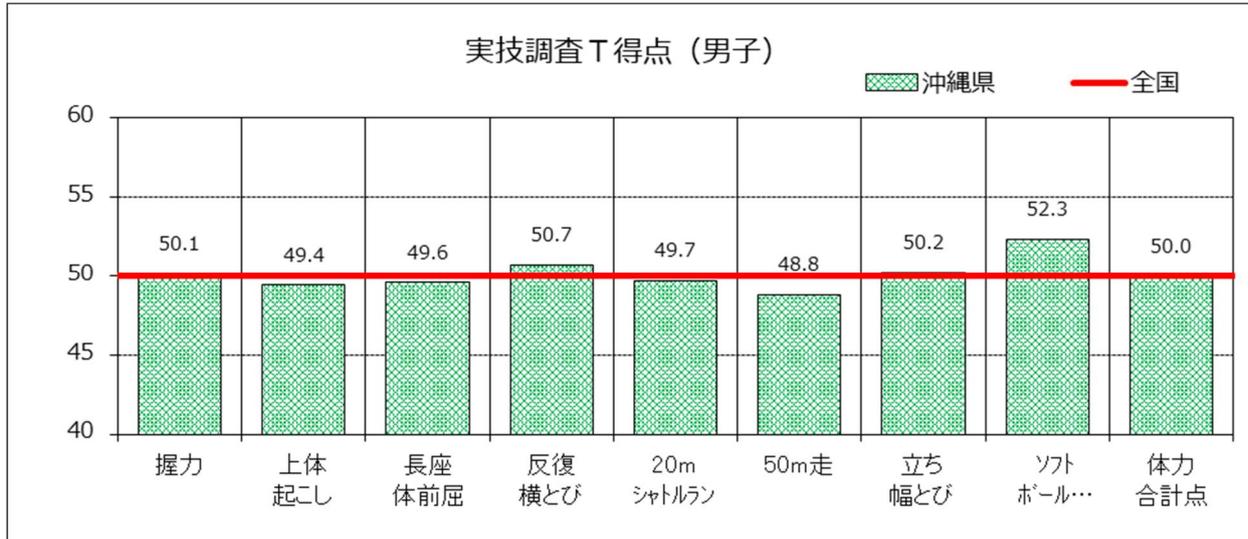
(1) 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点

小学5年生の体力合計点は、平成22年度からの経年変化からみると、男子は平成28年度、女子は平成27年度から上昇していたが、令和元年度からは下降に転じている。男子は昨年度から上昇傾向にあり、今年度、初めて全国平均を上回った。女子は令和3年度からほぼ横ばいで、全国平均には及ばないがその差は縮まっている。

※体力合計点：1項目10点満点の8項目を合計した得点



(2) 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査T得点
 項目別で見ると握力と反復横跳び、ソフトボール投げが平均値を上回っている。
 20mシャトルランの粘り強さ、50m走のすばやさ・力強さが課題である。



4 令和6年度沖縄県の中学2年生の結果

(1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点

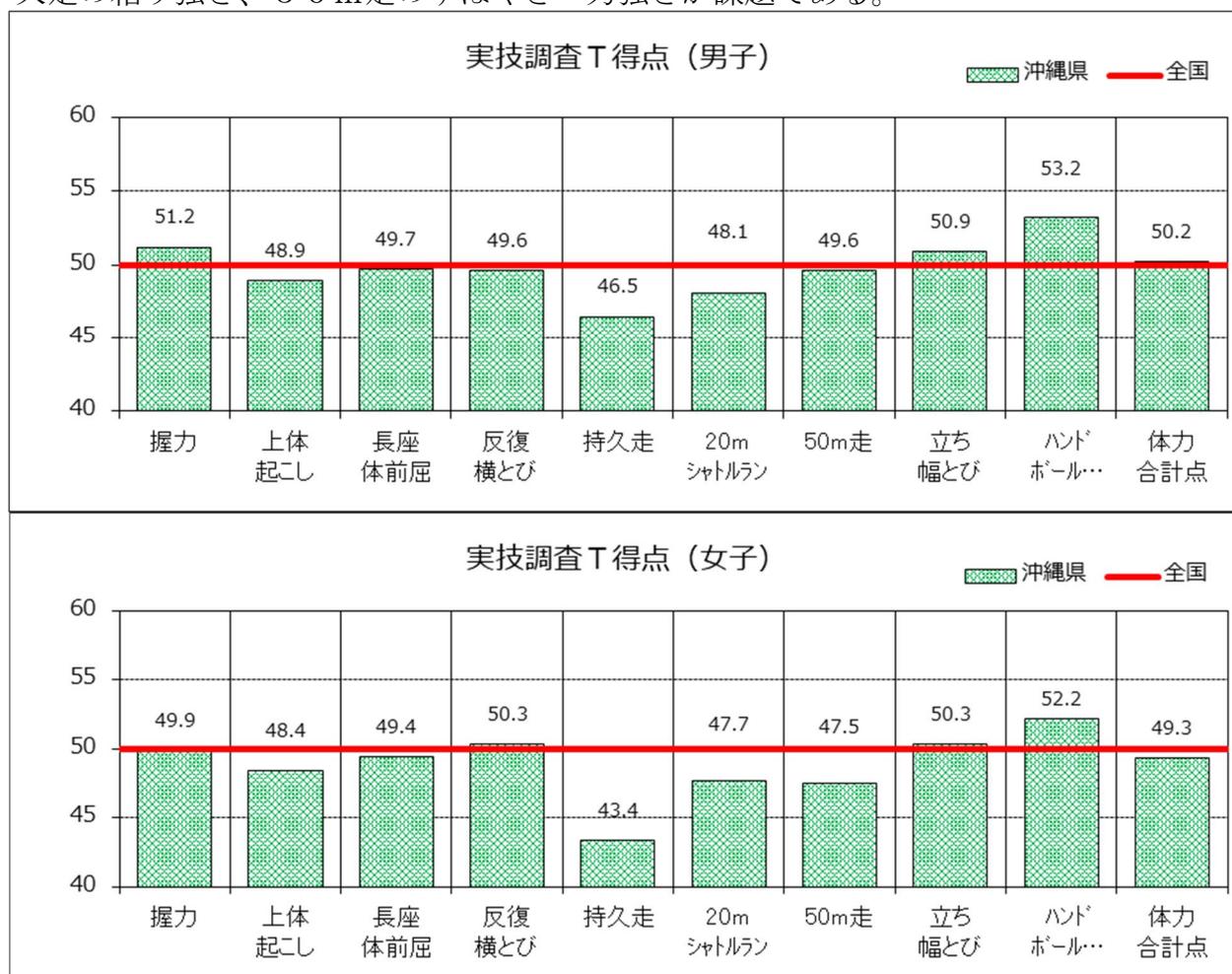
中学2年生の体力合計点は、男子については、令和4年度、全国平均を大幅に下回っていたが、昨年度から上昇傾向にあり今年度、全国平均を上回った。女子については令和3年度から下降し、昨年度より微増傾向にある。



令和7年第1回教育委員会会議 報告事項(3)

(2) 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査T得点

男女ともに前年度より体力合計点は、増加した。また、男女ともに立ち幅跳び、ハンドボール投げの記録が全国平均を上回っている。小学校同様、20mシャトルランや持久走の粘り強さ、50m走のすばやさ・力強さが課題である。



5 今後の取組

- (1) 沖縄県体力向上推進委員会において、体力テストの結果等を分析し、体力向上に向けた有効な取組について協議した内容を学校現場等へ周知することで、児童生徒の望ましい生活習慣、運動習慣の改善に向けた取組の充実を図る。
- (2) 授業改善の取組として、保健体育課主催の各種研修会や義務教育課と合同で行う学校支援訪問、教科支援訪問等を通して運動促進の取組と「運動が苦手な子」や「運動に意欲的でない子」が運動に親しみ、主体的に運動に取り組める授業づくりや、機会あるごとに幼児期から運動に親しむ取組を推奨する。
また、各教育事務所と連携して小・中学校体育主任を対象とした悉皆研修会等を実施し、小学校においては、小学校体育専科配置校の公開授業及び授業研究会で取組事例紹介を行う。また、校内研等で依頼があれば講師として体育専科教諭を派遣する。
- (3) 体育の授業以外での運動時間が少ない児童生徒、運動部活動等に加入していない児童生徒を考慮しつつ、学校教育活動全体を通じて体力向上に向けた「一校一運動」を推進する。
- (4) 家庭・地域と連携した運動習慣の日常化の取組を推進するため、夏休みや冬休み等に家族で週3回、30分以上の運動の実践を奨励する「家族で挑戦! がんじゅうアップチャレンジ!! 330」運動を展開する。
- (5) 次世代の健康づくり副読本「くわっち～さびら」(食育編)や「ちゃ～がんじゅ～」(生活習慣編)の学校現場における活用を促進し、児童生徒の望ましい食習慣、運動習慣の改善に向けた取組の充実を図る。